

これからは「めっちゃくちやま
化する世界」になります。そこ
で生き残るための教育は、意外
と本質的なものではないでしょ
うか。つまり、考える力と、考
えたことを言葉にする力を身に
付ける、そして、体験総量を増
やすということです。

どれだけ遊んでけんかをした
か、障害のある人や外国の人と
出会ったか。挫折も含めた多
様で豊かな経験が足りないとい
う大人になった時、苦手に感じたり、
乗り越えられなかったりしてし
まう。いつの時代も同じです。

「より良い枠組みを選ぶため
に良い成績を取る」という従来

たかはま・まさのぶ 1959年熊本県生
まれ。幼児から中学生までの学習塾「花まる
学習会」代表。3浪して東京大に入学、90年
に同大学院修士課程修了。思考力や野身体験
を重視する独特の教育理念や学習法で注目さ
れる。算数オリンピック作問委員も務める。

花まる学習会代表・高浜正伸さん

「当たり前」疑う機会

●●2

の考え方は、コロナ禍のよう
な事態に対応できない。知識を
蓄えて正しい答えを出すのは今
後、人工知能（AI）がやって
くれます。そうではなく、働く
頭をつくるのが大事。

そして、生き方は自分で決め
なくてははいけません。自分の
「好き」を大事にし、それで飯
を食うために何が必要かを考
える。それには「哲学」が必要で
すが、何にでも効率を求める雰
囲気の今はその時間がありません。

シリコンバレーで大成功した
人の共通点は高校、大学で「不
良」だったということらしい。
周りの言うことが絶対とは思わ

ず、従わない。学校に行かず街
でフラフラしながら、自分のベ
ースを取り戻し、世界を自分の
言葉で語り直す。正解なき人生
で誰の笑顔が一番大切にするか
を考えたのではないでしょ
うか。

実際に食べていくには実力を
付けなければいけません。しか
し、まずは自分の頭でどうとん
考え、周囲の期待や常識を取り
去った上で「やっぱりこれがや
りたい」というビジョンを明確
に持つことが大事です。コロナ
禍は「不良」でない人にも「当
たり前」を疑う哲学の機会を与
えてくれたのではないでしょ
うか。



高浜正伸さん。「教育とは、
生きる力のバトンを渡し続
けていくことです」